企業用済み→授産施設→学校

「みんなお得」パソコン再生

元IT技術者らのNPO

IT（情報技術）の知識を社会で生かそうと活動している高齢者集団「イー・エルダー」（東京都渋谷区）が、企業で不用になったパソコンを東京都江東区にある身体障害者の授産施設「ゆめ工房」で再生させ、非営利団体に寄贈する仕組みをつくった。月5千円程度だった障害者の収入が4万円に。「みんなが得をする仕組み。ここをモデルに、各地の障害者の施設に広げたい」と意気込む。

イー・エルダーは、日本IBMで社会貢献事業を担当していた鈴木政孝さん(62)たちが中心になり「シニアが社会を支えよう」と発足。00年に東京都のNPO（非営利組織）の認証を受けた。会員は、横浜や仙台、大阪など六つの支部に120人。日立やシャープ、日本ビクターなど様々な企業を定年退職した人が集まっている。

再利用パソコンの寄贈事業は、01年から始めた。対象はウィンドウズ98が動くパソコンで、IBMが中古パソコン提供と再生費、運営費を支援。マイクロソフト日本法人が費用の大半を占める基本ソフトの無償提供に協力した。01年度はキリンビールなど8社の提供で、483団体に約1千台寄贈。小、中学校での部活動や、福祉団体の点訳作業、事務作業などに使われている。

障害者施設でのパソコン再生作業の見学会。中古パソコンの提供企業に作業を説明する鈴木政孝さん（左から2人目）＝東京都江東区のゆめ工房で

昨年10月からは、再生作業の一部をゆめ工房に発注することにした。ゆめ工房から「やりがいと安定的収入につながる仕事をしたい」と相談を受けたのがきっかけだ。

ゆめ工房は、IBMから指導を受け、記憶装置などパソコンに必要な機能が正常に稼働するか見極める診断、データの消去、新品同様に見える外装クリーニングなどの技術を習った。これに、基本ソフトのウィンドウズ98やワープロ、表計算ソフトを組み込む。パソコン提供、協力企業の名前入りシールを張り、包んで出荷する。

携帯電話会社J－フォンは02、03年度で約1千台の中古パソコンを提供する。林義郎会長は昨年末にゆめ工房を見学した。「社会貢献はもちろんだが、この再生技術も提供の決め手だった。我々はお客様の情報を扱う。めったなところには出せない」と評価した。

パソコンの再生費は、1台あたり約8千円。ゆめ工房では13人が作業にあたる。責任者の田中秀樹さんは「パソコンが安定的に提供され、こちらも作業に習熟すれば、担当者に月6万円程度わたすことも可能」と話す。作業を担う1人、久保英俊さん(28)は「使うだけだったパソコンを作れるようになった。小遣いぐらいは自分で稼ぎたいのでうれしい」と話している。問い合わせはイー・エルダー、03・5728・3571へ。